（和）茗荷

三遊亭円朝

青空文庫

或旅宿の亭主が鬻ぎ込んで、主「何うも宿泊人がなくつては仕やうがない、何とか旨い工夫は無いものか知ら……ウム、日外お説教で聞いた事が有る釈迦如来のお弟子に槃特と云ふがあつて、至つて愚鈍にして忘れつぽい……托鉢に出て人にお前さんの名はと聞かれても、自分の名さへ忘れると云ふのだから、釈迦如来が槃特の名を木札に書き、之を首に懸けて托鉢に出したと云ふ、其の槃特が相果てゝから之を葬ると、其墓場へ生えたのが茗荷だと云ふ事だ、されば「名を荷ふ」と書いて「めうが」と読ませる、だから茗荷を喰へば馬鹿になる、今度お客が泊つたら茗荷を喰はせよう、さうしたら無闇に物を忘れて行くだらう、ナニ此方は泥坊を仕たのぢやアないから罪にはならねえや。頻に考へ込んで居る処へ、客「ハイ御免なさい。主人「へい〳〵畏りました。客「此の両掛を其方へお預かり下さい。主人「へい〳〵畏りました。客「お湯が沸いて居りますかな。主人「エヽ沸いて居ります…奥の二番へ御案内申しなよ。客「エヽ此荵入は他人からの預物ですから其方へお預りなすつて、夫から懐中に些とばかり金子がありますが、是も一緒にお預りなすつて。主「へい〳〵畏りました。是から湯に這入る、御膳が出る、お汁も向附も皆茗荷尽目。客「ハア妙な家だ。と思ひながら御飯を済まして褥に就く。翌朝になると早々に彼の客人は立つて了つた。妻「モシお前さん。主「エヽ。妻「彼のお客は忘れて行つたね。主「何うだ奇態なものだらう、茗荷を喰ふと馬鹿になると云ふが、実に不思議なもんだな。妻「本当にさうだね。話をして居る処へ彼の客人がせつせと

帰つて来て、客「おい〳〵あのね、今田圃まで出て肩を取換へようと思つてやると両掛が無いので驚いた、余り急いだので両掛を忘れました。妻「おやまア是に御座います、遂私の方でも心附きませんでした。客「ナニ是さへあれば大丈夫。と行つて了つた。妻「はー、私は彼奴が取りに来た時悔りしましたよ、だけれども未だ莨入を忘れて行つたよ。主「だからよ、不思議ぢやねえか。客「おい御亭主。主「おやお帰りなさい。客「アノ今ね、田圃へ出て一服やらうと思つて気が附いた、莨入を忘れて出かけたのを……。主「ヘイ、成程、此品で御座いますか。客「ウム、是さへあれば大丈夫だ。主「ウフ……両掛と莨入を持つて行つても、肝心の胴巻を忘れて行きやアがつた、何でも百両から有るやうだぜ、妻「何うも本当に奇妙だね、主「おや又帰んなすつた。客「昨夜お前さんに預けた、アノ胴巻を出して呉んな。主「はい〳〵此品で御座いますか。客「イヤこれを忘れちや大事だ、アヽ有難い、はい左様なら。主「ア、行つちまつた。妻「あれだけ茗荷を喰はせて何を忘れたんだらう。主「ヤ、彼奴め、昨夜の宿泊料を払ふのを忘れて行きアがつたんだわえ。

青空文庫情報

底本：「明治の文学　第9巻　三遊亭円朝」筑摩書房
　　2001（平成13）年8月25日初版第1刷発行
底本の親本：「定本　円朝全集　巻の13」世界文庫
　　1964（昭和39）年6月発行
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2009年6月19日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

（和）茗荷

三遊亭円朝

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/